

# 計量書誌学的分析から見る乳がん診療ガイドラインが引用する文献の特徴

西村 飛俊

愛知淑徳大学大学院文学研究科図書館情報学コース

## 1. 概要

診療ガイドラインの特徴のひとつに、その診療の根拠として文献を数多く引用することが挙げられる。引用文献の決定の為に網羅的な検索・収集が行われ、その後文献のスクリーニングを行い、最後にガイドライン作成委員会のコンセンサスを得た文献が、ある診療の根拠としてガイドラインに掲載される。その数はどのガイドラインでも少なくとも数百にのぼる。本研究では診療ガイドラインの引用文献の特徴を、引用評価指標を用いて調査した。引用評価指標とは文献の被引用数を基に算出される指標であり、有名なものではインパクトファクター（雑誌の引用評価）、h-index（個人研究者の引用・論文生産量評価）などが挙げられる。また引用のみではなく、計量書誌学の伝統的な指標（論文生産量や著者の所属国など）をも用いて調査した。

## 2. 対象と方法

National Comprehensive Cancer Network(NCCN 米国)と日本乳癌学会が提供する「乳がん診療ガイドライン」に引用された文献群を用いた。NCCN と日本乳癌学会のガイドライン刊行形態は異なり、NCCN がひとつの資料にまとめられているのに対し日本乳癌学会では各診療テーマについて5分冊されていた。このためアメリカと日本で文献数に差が生じている。文献は合計2,267件になり、この文献群について、Web of Science を用い書誌情報と被引用数情報を集めた。重複と書誌がないものを除いて、最終的な対象文献は1,871件とした。内訳はアメリカが405件、日本が1,466件となった。

書誌の情報はすべてEndNoteに一度ダウンロードされてからMicrosoft Excelに出力された。調査は著者の所属国分布・国際共著割合、掲載雑誌の分布、Journal Citation Reports (JCR) から出した雑誌の引用指標との関係、文献の引用数の分析を行った。

## 3. 結果

診療ガイドラインの文献群の特徴として、以下のことがわかった。1. 欧米などの先進国17ヶ国のみで診療ガイドラインの94%の文献をカバーしていた。国際共著は20%程度と低迷していた。2. 引用文献の掲載雑誌はブラッドフォードの法則とよく似た分布を示し、上位の1誌から2誌がコアジャーナルとして認定出来た。3. 雑誌のカテゴリーは多岐にわたり、さまざまなエビデンスを診療ガイドラインが収集していることがわかった。4. 雑誌指標は日本と米国の診療ガイドラインでそれぞれ違う相関を示した。このことから日本人著者は高く評価されている英文雑誌に多く投稿しており、日本人を多く引用する日本の診療ガイドラインでは雑誌指標との高い相関が出たと考えられる。

以上のように、今回対象とした診療ガイドラインが引用する文献の特徴を把握することに成功した。